



英語で変わる
英語で変える

グローバルセミナー座談会

ニセコから
レスブリッジへ

2023年10月31日(火) 開催

グローバルセミナーは、2020年開講の法学部独自プログラムの一つ。将来英語を使って国内外で活躍したいという法学部生のモチベーションに応えるための科目群です。まず、国際化が著しい北海道・ニセコでEnglish-Onlyキャンプ。そして、本学協定校のレスブリッジ大学(カナダ・アルバータ州)への留学。ニセコからレスブリッジへとステップアップができる構成になっています。この度、グローバルセミナーの魅力と実態に迫るために、札幌とレスブリッジをオンラインでつないで座談会を開催。関連の学生・先生方に語り合っていました。

《参加者》

◎レスブリッジから

内田 優芽子 さん

法学部政治学科3年
2023年度GS IV履修生

谷 悠花 さん

法学部政治学科3年
2023年度GS III履修生

池田 真歩 先生

2023年度レスブリッジ大学派遣教員

◎日本から

赤坂 和哉 さん

法学部1年
2023年度GS I履修生

松浦 和宏 先生

グローバルセミナー担当教員

佐藤 ケイト 先生

グローバルセミナー担当教員



内田 さん



谷 さん

科目名	開講年次	内容
グローバルセミナーI	1年次以上 1学期 — 夏季集中	ニセコ English-Only キャンプ
グローバルセミナーII	2年次以上 1学期	留学準備研修
グローバルセミナーIII	2年次以上 2学期	レスブリッジ大学に4ヶ月留学
グローバルセミナーIV	2/3年次 2学期	レスブリッジ大学に8ヶ月留学

ニセコキャンプをきっかけに

松浦 今日は、グローバルセミナー(以下、GS)IのニセコキャンプからGS III・IVのレスブリッジ大学留学へとつなげた、もしくはつなげていきたいという学生さんに集まって頂きました。まずは、GS Iを履修したきっかけは何だったかお聞きしたいです。

内田 もともと留学には行きたかったのですが、なかなか親からOKが出なくて。英語を使う機会を探していた時、GS Iを見つけて参加しました。この時、英語は勉強してきたけれど話すことって難しい、と気づきました。将来の選択肢の一つとして観光業にも関心を持ちました。英語が、ただの憧れではなく、英語を使って将来何をしたいのか考えるように変わっていった。親へも留学の目的をしっかり伝えて、わかってもらえるようになりました。

谷 大学入学直後のガイダンスでGSを知って、絶対参加しよう!となりました。卒業後は大学院で修士号をとりたいので、英語力は必須。ニセコキャンプや留学はこの目標に向けたステップの一つです。

松浦 ニセコキャンプ後はどういう流れでしたか?

内田 11月にGS III・IVの説明会がありました。応募に必要な英語のスコアを獲得して、年明け1月に書類提出、2月に面接、という流れでした。その間、オンライン英会話のコースを受けたり、文法や単語の勉強もしました。

留学準備!
ビザの取得や研究テーマの設定

松浦 4月からのGS II・留学準備研修では、どんなことをしましたか?

内田 学生ビザの準備などを行いました。時間はかかりましたが、先生方にサポート頂きながら進めることができました。話はそれますが、ちょうどその時期レスブリッジ大学から北海学園に来る交換学生をサポートする「協力学生」になって、会話力アップや国際交流の点でとても有意義でした。おすすめです!

佐藤 GS IIには研究テーマの設定もあります。お二人の希望を聞きながら決めました。

谷 私のテーマは、もともと教育政策に興味があったので、カナダの教育政策。レスブリッジ大学は先住民の人たちが住んでいたところに建っているので、大学における先住民の学生たちの

現状調査をして、テーマを深掘りしてみようと思っています。

内田 私のテーマは、先住民が受けてきた迫害の歴史です。計画していた研究方法には少し見直しが必要な部分もありますが、今受けているクラスの先生が先住民に詳しく、教材も先住民に関することが多いこともあり、軌道修正をはかっているところです。

いよいよ留学! どんな勉強中?

佐藤 9月からレスブリッジ大学でEAP(※)を受けていますね。どんな授業ですか?

(※English for Academic Purposes=大学で専門的に学ぶための英語学習プログラム。)

谷 午前中はリーディングとライティング、午後はコミュニケーション(スピーキングとリスニング)のクラスです。基本は、共通教材をもとに、グループワーク、ディスカッション、発表。法学部のゼミ(演習)のような感じ。クラスは英語力に応じた4レベルに分けられています。

内田 私は、午前中のクラスが一番上のアドバンス・レベルに入っています。英語のレベルが高いので、予習・復習がとても大事。クラスメイトの



オンライン座談会の様子。内田さん(中段左)、谷さん(下段右)、池田先生(上段右)、赤坂さん(下段左)、佐藤先生(中段右)、松浦先生(上段中央)、他、本記事構成担当の高橋美野梨先生(中段中央)、津田久美子先生(上段左)

モチベーションも高く刺激を受けています。

佐藤 発表はどんなスタイル?

谷 リーディングクラスでは1冊の本を1人1章ずつ要約するのですが、その中で難しかった単語を紹介したり、本に関する問いを3、4つ提示したりする発表スタイルです。コミュニケーションクラスではチーム発表もあります。発表のあとは先生やクラスメイトとディスカッションします。

内田 発表の他には、エッセイの執筆もあります。分量は1000ワードで、書き方も教わりますが、難しい部分もあるため、カナダ人の友人に相談しながら取り組んでいます。

佐藤 宿題はどうですか?

内田 だいたい毎日出ています。小説のこの部分を読んできてとか、エッセイのアウトラインを持って来てとか。できるだけ早めに終わらせて、週末はダウンタウンに遊びにでかけたり、映画に行ったりしています。

谷 宿題が多いと週末すべてをそれにあてることもありますが、余裕がある週末は、友人のホームパーティーに参加したり、映画を観たりして過ごしています。

佐藤 EAPのクラスメイトの出身地は?

谷 クラスメイトは10人前後で、半数が日本から、残りは韓国、ブラジル、中国などです。

内田 私のクラスは韓国、中国、ウクライナ、モンゴルなどです。

レスブリッジでの日々

佐藤 授業外でクラスメイトとの交流はありますか?

谷 私はEAPの友人と過ごすことが多いです。中国とブラジルの方とよく一緒にいます。

内田 私は「協力学生」の時にできた友人との交流を続けていたり、ステイ先のルームメイトからネイティブの方を紹介してもらったりしています。日本語を履修している現地の学生と交流する「カンパセーション・カフェ」にも行っています。

佐藤 これからやりたいことは何ですか?

谷 11月半ばに一週間ほど秋休みがあるので、ホストファミリーに日本食を作ってあげたい。友人とダウンタウンに行く約束もしています。

内田 私は秋休みにケベックに行く予定です。カナダは広いので色々なところに行きたいと思っています。

佐藤 レスブリッジはどんな街でしょうか。

池田 人口10万くらいでしょうか。賑わいはありますが、ダウンタウンは小さく、その周りに住宅地があり、その先は広大な農地です。こちらに来て予想以上だったのが、日系カナダ人コミュニティが力強いということ。レスブリッジは20世紀に入ってから日本移民が住み始めて、戦時期を経て、戦後も残った人たちがつくってきた色々な集まりがあります。このようなコミュニティの存在はGS履修生にとっても良い環境だと思います。気候については、ここ数日急激に寒くなって、雪も降りました。札幌以上に寒暖差が激しいです。札幌と同じで家の中はとても暖かいです。

松浦 赤坂さんからはどうですか?

赤坂 内田さんとは「協力学生」で一緒にしました。英語がよくしゃべれてすごいなと思っていました。今日もお話を聞いて、留学が身近なことなんだと感じ始めています。質問をいくつか持ってきたのですが…。

松浦 どうぞ!

赤坂 滞在費は日本で貯めましたか?現地でバ

イトできるのでしょうか?

内田 GSの場合、現地でのバイトは禁止だと理解しています。日本にいた間に貯めました。

谷 渡航費も含め、日本でしっかり計画を立てることが大切ですね。

赤坂 留学中に必要になったものは?

内田 「カンパセーション・カフェ」にはアニメ好きな人が多いので、日本のアニメ系のお土産が必要かなと思いました。日本のお菓子も。アーモンドチョコがいいと聞いて持っていったら、本当にみんなハグするくらい喜んでくれました。

谷 お土産にはうちわも良いですよ!絵柄が素敵なものが沢山あります。

赤坂 ハロウィンはどうですか?(※撮影日、ちょうどハロウィン)

内田 すごいですよ。ゾンビが出てきたり。大学内でのハロウィンパーティーやダウンタウンのクラブに仮装して行ったりもしました!

挑戦してみよう!

松浦 最後にメッセージをお願いします。

谷 私は日本では課題やバイトなどで忙しすぎていたこともあり、こちらではむしろ生活にゆとりがあって(笑)、何もかも楽しいです。とはいえ、留学に来ている人のモチベーションはそれぞれなので、なんで留学したいのか、目的意識をしっかりと持って来ることをオススメします。大学で資料収集したり、友達と話したり...何をやっても新鮮で魅力的ですよ!

内田 英語の勉強は日本でもできますが、現地に来たからこそ身につくこともあります。自分の成長を自分で感じられる楽しさがあります。迷っていてもちょっとでも興味があるのなら、GSに挑戦してみたら良いと思います!

池田 留學生活への不安を感じて応募をためらう人もいるかもしれませんが、レスブリッジ大学の経験豊富なインターナショナルセンターが手厚くサポートしてくれます。ぜひ多くの学生さんにGSに挑戦してほしいです!

佐藤 応募をお待ちしております!

(構成:津田久美子、高橋美野梨)



レスブリッジでの様子。左から2番目が谷さん。ハロウィンの日に、EAPのクラスメイト・先生と仮装して。

ニセコ English-Only Camp

イングリッシュ・オンリー キャンプ

今年も開催しました！



英語漬けの4日間！

9月4日から7日までの3泊4日の日程で、「法学部 English-Only キャンプ」を今年度も実施しました。驚異的なスピードで国際化するニセコで3日間を、残りの1日を豊平キャンパスで開催しました。

ニセコでの3日間は、変化するニセコについて学び、アクティビティも交えつつ、英語スキルを向上させるプログラム。また、最終課題である英語でのプレゼンテーションのために、4日間を通して準備をしました。

「法学部 English-Only キャンプ」は、来年度は4日間ニセコで実施予定です。何となく英語を使ってみたい、英語のスキルを伸ばしたい、留学してみたいと思っている皆さんのご参加をお待ちしております！

松浦 和宏 (法学部准教授)



ニセコキャンプ参加レポート

最初は英語ができない自分でもついていけるか不安でしたが、ニセコでのラフティングやロッククライミング、異文化理解シミュレーションなどを通じて英語を学べて、とても楽しかったです！また、キャンプでは共同生活なので、英語以外の面でも様々な経験ができ、多くのことを学びました。

英語力についても、4日間常に英語が身近にあったので、大きく成長できたと思います。特にリスニングの部分での成長を感じていて、以前より自然と英語が耳に入ってくるようになりました。

このキャンプは、「英語が苦手... だけど話せるようになりたい!」という僕が英語学習の第一歩を踏み出すきっかけとなりました。この経験を今後の英語学習に活かしていきたいと思います！

五十嵐 幹太 (法学部1年) ※左写真中央および本誌表紙



Why don't you join us?

ニセコ町役場訪問など、法学部ならではのプログラムもあります。参加したら、きっと自分の成長に驚きますよ。皆さんの参加をお待ちしております！

佐藤 ケイト (法学部准教授)



フォニックスから始める英語コミュニケーション

日本の方々の多くは英語で自信を持って話したりコミュニケーションすることが苦手ですが、英語教員の私の仕事の1つはその苦手意識を乗り越えるお手伝いをすることです。その苦手意識の背後にある要因を調べ対処することは全く異なる2つのテーマの研究へと私を導いてきました。

発見への道

フランス軍士官学校で英語を教えた後、父の家で偶然見つけた新聞の求人広告を頼りにロンドンの日本大使館へ面接に向かっていました。日本で英語を教える教員採用面接で面接官に日本のどこに行きたいか希望を聞かれ「南の方へ行きたい」とお伝えしましたが、採用されたのは北海道の南部、室蘭でした。その後もイギリスやアメリカで世界中から集まっていた留学生に英語を教え、再び北海道に戻り英語教員として歩み続け今日に至ります。0歳児から社会人まで様々な背景を持つ方々に教えながら、英語を母国語としない他国の学習者は日本の学習者のように英語を使う事に苦労していないことを見て不思議に思ったものです。「日本の学習者がもっと自信を持って流暢に英語を使えるようになるには私に何ができるだろう?」と自問しながら研究を始めて20年以上になります。0歳から12歳を対象とした英語学校を15年運営していた頃、子供たちは英語の4技能を使うことに自信を持つようになっていきました。見学を希望する英語教師の訪問を受け入れ、全国の学会やワークショップにて児童英語の教え方を発表しながら、フォニックス、および読書プログラムの教育法が鍵であることがわかりました。

英語学習の基盤

フォニックスを教えるアプローチはいくつもありますが、日本の英語教育では多くの方にまだ理解されていないように思います。多くのアイデアや概念が教室に流れ込む中、多くの教師たちは最良の結果を得るためにどのように教えるかをよく理解しないまま、教師自身にとって快適に



佐藤 ケイト

使える教材を選び使用することがあります。その一方で、よく構成されたプログラムは英語4技能すべてを強化することを可能とします。2012年、将来教員となる学生を大学で教えていましたが、そのコースにフォニックスのトレーニングを組み込みました。フォニックスに馴染みのない学生が教え方を習得するのは難しいことに気がきましたが、しっかりしたフォニックスのコースが教師と学習者の両方を助けることができると確認してから、北海道の小学校でフォニックスプログラムを導入する可能性を調査してきました。最初のステップは、教師にできるだけ負担をかけずに授業に導入しやすい1年のカリキュラムを作成し、この研究の良好な結果を確認した後、教材の分析、作成に取り組むことでした。この研究は継続中ですが日本の教育分野の方々から非常に多くの関心を持って受け入れられていることを嬉しく思います。小学生がフォニックスを通じて英語学習のしっかりした基盤を築くことができれば、その後の彼らの英語学習に長期にわたり役立つでしょう。しかし、これは英語を学ぶ今日の大学生のみなさんが直面している問題に対処していません。

異文化間コミュニケーション

口頭での英語コミュニケーションスキル向上について研究しているもう1つのテーマでは、文法やスペリングに重点を置く学習から、英語の使い方を学ぶことへシフトすることが含まれ、こ

の時に英語はみなさんが楽しむことができるツールとなります。私の英語学校の生徒たちが異文化の人々と本物のコミュニケーションを楽しんでいるのを見た経験は、私の研究の第二の方向性を示す原動力となりました。英語でコミュニケーションをする状況は、相手が日本人ではない異文化間のものとなり、これは見落とすことのできない重要なポイントです。異文化間コミュニケーションの実際のかつ理論的な要素が私の研究の焦点となるにつれて、ドイツの大学に勤務する共同研究者と数多くのプロジェクトを行うようになりました。私たちはイギリスの国際会議で出会い、日本とドイツ双方から参加する学生全員が英語を使い協働する必要があるプロジェクトを立ち上げ、その中で学生たちの障害となる、あるいは役立つ要因を研究し、彼らの経験を有意義なものに向上させることを目指してきました。

自分の文化を理解し意識することは、異文化間コミュニケーションの第一歩です。コースを通じて、学生たちは異文化間のコミュニケーションスキルを向上させるだけでなく、日本の文化やそのユニークさについても評価し学ぶようになります。学生のみなさんが英語のスキルを磨き、コミュニケーションをする喜びや利益を享受するのを拝見することにやりがいを感じますし、卒業される頃には、職場や、プライベートをより豊かに過ごすためのツールとして英語をお使いになれる準備が出来ていたら嬉しいです。

さいごに

私の2つの研究分野は、英語を学ぶ学生の皆さんが実際に英語を使うことを楽しめるようにお手伝いをしたいという強い気持ちから生まれました。小学生のためのフォニックスプログラムの作成と実践が1つの研究分野で、もう一つは大学生のための異文化間コミュニケーションプロジェクトです。これらの研究を通じて、もっと多くの生徒たちが英語を使う喜びを発見し、より充実した生活を送られますよう心より願っております。

“運”と“出会い”にめぐまれて

法学部教授 佐藤 克廣

「塞翁失馬」という四文字熟語はそれほどなじみがないかもしれませんが。悪運だと思っていたら良運に、その逆に良運だと思っていたら悪運になったりするという意味で使われます。「人間万事塞翁が馬」という格言でも知られています。

私が北海学園大学法学部に採用されるまでの人生（といってもわずか27年）は、自己評価ではまさに塞翁失馬だったと言えます。どういった出来事がそうかを書き出したら与えられた誌面を遙かに超えてしまいました。結論だけ申し上げますと、結局は27歳で北海学園大学法学部に就職できましたから、悪運だと思っていた様々な事柄が、結局良運に帰結したと言えます。採用後は、塞翁失馬というほどの“運”の浮き沈みはなく、その後43年間はまあまあ良い人生を送ってきたかと思います。これは、法学部の教員・事務職員の先輩・同僚の皆さん、そして学生さんたちのサポートのたまものだったと言えます。

この“運”を左右するのは、70年の人生を振り返ってみますと、さまざまな人々との“出会い”であったと感じます。幸い脳天気なので、悪運を招いた人々のことはだいたい忘れていきます。しかし、良運をもたらしていただいた方たちのことはなかなか忘れられません。そういった方たちのお名前をあげていたら、やはり与えられた字数を大幅に超過してしまいました。この人をあげたらあの人もあげないとバランスがとれないと良運をもたらしていただいた方たちをたどっていくうちに結構な人数になってしまったか

らです。

私自身は、なぜそういった方々が私に良運をもたらしてくれたのか、よくわかっていません。わかっていたら、それは“運”ではなくて、自分の努力の成果と言えるかもしれないのですが、残念ながら“運”としか言えません。そもそも私の辞書に「努力」という言葉はないので、これは仕方ありません。つまり努力したことがないというか、努力はしない、しても仕方ないと小学生の頃には決めていて、60年以上その決心に従ってきました。努力をしないという「努力」をしてきたではないか、と反論されるかもしれませんが、そうした反論はほっときましょう。

“出会い”は常におこなわれているというか、あるといえます。その“出会い”をどのように活用するかは、おそらく人それぞれでしょう。この駄文をお読みいただいている方にもさまざまな“出会い”があったし、これからもあると思います。人との“出会い”だけでなく、出来事や言葉との“出会い”も重要かもしれません。そうした“出会い”をできるだけ自分の糧にできると良い人生が送れるでしょう。いくつかの転職のお誘いをお断りして北海学園大学法学部に居座り続けたことも“運”と“出会い”のたまものだったと言えます。

「幸運な出会いも不幸な出会いもない。あるのはただの出会いだ。その出会いが吉と出るかどうかは、あなた次第だ」と言ったのは誰だったか思い出せませんが、皆さんの“出会い”が幸運につながることを願って、私の退職の弁といたしましょう。



退職するのはむずかしい

法学部教授 鈴木 美佐子

唐突ですが、私は「笑う哲学者」として一部では有名な土屋賢二の教え子で、存在感の薄さを受け継いでいます。

たとえば、樽見先生言うところの「自由通路」の自動ドアは手をかざすセンサー式なのですが、存在を感知してくれないことが度々で、後ろから来る学生に「何じゃこいつ、邪魔くさい」と開けてもらったり、年配女性に「あれ?開かないかい?」「すみません、お願いします」と通してもらったりして、存在感のなさを発揮しています。

また、後任人事の審査資料に「倫理学後任人事」との記載があるのを見て、もしかしたらまちがって退職願に「倫理学」と書き、鶴殿先生を退職に追い込んでしまったのではないかと思いましたが、投票の際にも「倫理学後任人事の可否に関する投票」との説明がありましたので、やはりまちがったのかもしれないと、手を挙げて確認しようかと思っただけです。

食堂でいつまでも注文を取りに来てもらえなかったり、教授会にいなかったと言われたりとその存在の軽さを年中嘆いていた指導教官を引き合いに出した理由は、最近のことを覚えていないとか、本学在職中に同僚から唯一感心されたのが「土屋賢二のところまで助手をしていた」ことだけだったからとか、数々ありますが、この度の早期退職を誰よりも惜んでいるのがツチャヤ^(注)だからです。

ツチャヤは、「辞めると鈴木は北海道を去る→お中元に夕張メロンが送られてこなくなる」という一見非

の打ちどころのない推論を行い、「いやあ鈴木さん、定年まで勤めるといのが常識ある社会人の義務だよ」とかなんとかメールしてきますが、「それはまず前提がまちがっています。辞めたからと言って札幌を去るとは限りません。もう一つメロン産地富良野に住むかもしれないではありませんか。しかもその推論は決定的な誤謬を犯しています。今まで送ってきたのだから、辞めなければこれからも送ってくるという帰納的推論は蓋然的に真であるにすぎないのです」と返信したところ、翌月の「ツチャヤの口車」に「近ごろは誰からもお歳暮が送られてこず、喜寿の祝いももらえなかった」との愚痴が載っていました。

もう11月も終わりなのに研究室の片づけがまったく進んでいません。書棚に並んだ本の処理法(持ち帰るか、図書館に置いてもらうか、図書館に処分をお願いするか)を決めるため1冊ずつ検討していますが、検討すればするほど読む価値があるように思えてきて決めることができません。あと4カ月では不可能に思えると職員Nさんに相談しましたところ、「林家木久扇のように引退を撤回したらどうですか?」と言われましたが、退職前昇給分の返還が求められるに違いありません。考えてみればこの原稿も退職までのハードルの一つで、このあと冬道の出勤、レポートの採点、書類の分別と廃棄、年金の説明会、冬道の退勤、退職のあいさつなどたくさんさんの難関が待ち受けています。退職するのがこんなにむずかしいとは知りませんでした。

(注) 法学部の方々には論文の中で恩師の著書などを引用される時にも「〇〇先生」「●●教授」と書いておられ、専門によってカルチャーが違うことに感心した覚えがありますが、私ども哲学出身の者は、「アリストテレス」や「カント」と呼び捨てにするのにならい、学部どころから「ツチャヤ」と呼んでいましたので、ここでもそう書かせていただきました。



OB・OG
友達紹介
第20回



もり けんた
森 建太 さん
(司法書士)

—今回ご紹介するのは、司法書士の森建太さんです。よろしくお願いします。

よろしくお願いします。

—現在のお仕事はどのようなものでしょうか？

司法書士として働いて3年目になります。少し珍しいケースかと思いますが、事務所に勤務しながら、私個人も開業届を出しているの

分の名前でも仕事を受注しています。事務所の方では登記業務や相続手続を主に扱っていて、個人の方では裁判業務や債務整理などにも携わっています。個人では自由が利きま

すし、裁判業務や債務整理などを担当していると、法律家として人の役に立っているという実感がわきますね。
実際司法書士になってみて、司法書士は選択肢の多い職業だということも感じます。事務所に所属してもいいですし、個人で独立開業してもいいですし、民間の相続センターのような企業に勤めて法律の知識を活かすということもできます。いろいろな仕事のやり方がありますね。

—司法書士を目指すきっかけは何だったのでしょうか？

学部時代に法職講座の講義で司法書士という仕事を初めて聞いたのがきっかけです。とくに、実務の話を聞いたのがとても良かったと思います。法律家になると法律の知識を活かして人の役に立てるんだということが良く分かりましたし、司法書士を目指す強い動機付けになりました。現在、個人として裁判業務にかかわっている場面では、やりたかったことができています。

—学部時代の活動で、今につながっていることはありますか？

司法書士を目指して、学部2年の冬から資格予備校に通って勉強をしてきました。サークルにも所属していましたが、そこでの友人たちとは社会に出てからも付き合いが続いています。お互いの専門知識について気楽に相談しあえたり、仕事を依頼されることもあったり、学部時代に友人がたくさんできたのは本当に良かったなと思います。

—仕事についても学部時代の経験が活かしているんですね。後輩へのメッセージをいただけますか？

ぜひ、「やりたいこと」を見つけてほしいですね。そして「やりたいこと」を見つけたら全力で頑張ること、結果を出すまで突き詰めることが大事だと思います。そうすることで自分が変わるかなと思いますし、自信につながります。今自分がやりたかったことを仕事にできているので、その大切さを強く感じています。

—「やりたいこと」を見つけて仕事にすることは、目指していきたいですね。どうもありがとうございました！

《次号に続く》
(構成：岩坂将充)

2024年度 法学部 各種入試 一覧

特別選抜(社会人Ⅱ期)

Ⅱ期(口頭試問・書類審査)

募集人員：2部法学部 5名

出願期間：2024年2月13日(火)から

[郵送]2月20日(火) 消印有効

[窓口]2月21日(水) 午後4時締切

試験日：2024年3月2日(土)

法学部編入学試験 (3年・2年次編入)

募集人員：

[3年次]1部法律学科 推薦を含め20名

1部政治学科 推薦を含め10名

2部 若干名

[2年次]1部・2部 若干名

出願期間：2024年1月10日(水)～1月17日(水)

試験日：2024年2月16日(金)

* 法学部1年次からの入学は、学部単位で募集します。所属学科(法律・政治)は入学後1年次末に選択します。

出願資格、必要書類などについてのお問合せ先

[特別選抜(社会人)] 入試部 電話 011-841-1161

[それ以外の入試] 法学部事務室 電話 011-841-1161 (内線2228) FAX 011-824-2292